

第九十回帝國議會 院 勞働關係調整法案委員會會議錄(速記)第十一回

(1101D)

付託議案
勞働關係調整法案(政府提出)

昭和二十一年八月十六日(金曜日)
午前十一時十三分開議

出席委員

委員長 逢澤 寛君

理事 江崎 眞澄君 理事 武田信之助君

理事 竹田 儀一君 理事 原 健三郎君

理事 川崎 秀二君 理事 松岡 駒吉君

飯國壯三郎君 今井 はつ君

大内 一郎君 花月 純誠君

杉田 馨子君 原 侑君

村上 勇君 木村 公平君

山本 勝市君 椎熊 三郎君

白井 秀吉君 橋 直治君

仲川房次郎君 山下 春江君

辻井民之助君 土井 直作君

今村 等君 中原 健次君

東 隆君 中野 四郎君

野本 品吉君 細迫 兼光君

八月十四日委員穗積七郎君、岡部

得三君、古賀喜太郎君及比關谷勝

利君辭任ニ付其ノ補闕トシテ野本

品吉君、原健三郎君、北村德太郎

君及比天野久君ヲ議長ニ於テ選定

シタ

八月十五日委員藤田榮君、瀧澤脩

作君及比山田善三君辭任ニ付其ノ

補闕トシテ細迫兼光君、武田信之

助君及比木村公平君ヲ議長ニ於テ

選定シタ

八月十六日委員北村德太郎君及比
天野久君辭任ニ付其ノ補闕トシテ
椎熊三郎君及比白井秀吉君ヲ議長
ニ於テ選定シタ

八月十六日理事瀧澤脩君、岡部

得三君及比古賀喜太郎君ノ補闕ト

シテ武田信之助君、原健三郎君及

比川崎秀二君ガ理事ニ當選シタ

出席國務大臣

厚生大臣 河合 良成君

出席政府委員

厚生事務官 吉武 惠市君

厚生事務官 富樫 總一君

本日ノ會議ニ付シタ議案

勞働關係調整法案(政府提出)

○逢澤委員長 是ヨリ開會致シマ

ス、此ノ際御諮リ致シマス、去ル

十四日理事岡部得三君、理事古賀

喜太郎君、及比十五日ニ理事瀧澤

脩作君ガ委員ヲ辭任致シマシタノ

デ、右三人ノ理事ノ補闕ト致シマ

シテ、原健三郎君ト川崎秀二君及

比武田信之助君トヲ推薦致シタイ

ト思ヒマスガ、御異議ハアリマセ

ヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○逢澤委員長 ソレデハ原健三郎

君ト川崎秀二君及比武田信之助君

トハ理事ニ御當選ニナリマシタ、

是ヨリ勞働關係調整法案ヲ議題ト

シテ討論ニ付シマス、討論ハ通告

順ニ依リ之ヲ許シマス——江崎眞
澄君

○江崎委員 私ハ日本自由黨ヲ代

表致シマシテ、本法案ニ對シマシ

テ賛意ヲ表スル者デアリマス、我

我ハ敗戦後平和ヲ愛好スル國民タ

ラント云フ誓ヒテ世界ニ致シタノ

デアリマス、以來恰モ一年、既ニ

シマシテ憲法草案ニモ、四國武力

ヲ擁シマスル中ニ、之ヲ敢然拋棄

シ、平和愛好ノ精神ヲ實踐セント

スル氣構ヘラ示シテ居ルノデアリ

マス、外ニ平和愛好ヲ言ヒナガ

ラ、今眞ノ産業再建ヲ前ニシテ居

ル時、職場ニ過激ナル階級闘争ガ

斷エズ起ツテ居ルト云フコトヲ一

體如何ニ考ヘルベキデアルカ、例

ヘバ我々家庭ニ於キマシテモ、男

女同權ヲ説クノ餘リ斷エズ家庭ニ

於テ風波ガ絶エナイト云フヤウナ

コトガ、即チ平和ヲ志ス所ノ國民

トシテノ在リ方デアアルカドウカト

云フコトヲ考ヘマスル時ニ、今日

闘争ヲ以テ發展ノ母ナリト云フ觀

念ハ、少クモ昭和二十年ノ八月

十五日ヲ以テ我々日本ニハ通用シ

ナクナツタト私ハ思フノデアリマ

ス、本調整法案ヲシテ一方ノ味方

デアルト解スル所ニ、私ハ世上ノ

誤解ガアルト云フコトヲ恣ニ感ズ

ルノデアリマス、私共ハ厚生大臣

アリマスルガ、正ニ勞働者ノ味方

デアルトカ、或ハ資本家ノ立場ヲ

代表シタモノデアルトカ云フヤウ

ナモノデアツタナラバ、既ニ我々

トシテモ審議ノ必要ヲ認メナイノ

デアリマス、私共ト雖モ全國約八

割ヲ占メル勤勞者ノ代表デアルト

云フ感じニ於キマシテハ、又勞働

者諸君ノ地位ノ向上ヲ圖リ、其ノ

發展ヲ希フ熱情ニ於キマシテハ、

社會黨及比本法案ニ反對セラレ

ントスル所ノ諸君達ト同様ノ熱意

ヲ以テ居ルコトニ變リハナイノデ

アリマス、今日物價騰貴ト食糧不

足ト云フ生活危機ヨリ生ズル眞剣

ナル勞働者諸君ノ要求ハ、公平ニ

判斷セラレ、飽クマデ其ノ生活

ガ保障セラレナケレバナラヌト云

フコトハ言フマデモナイコトデア

リマス、併シハ所謂破壊ノ闘

争ニ依ツテ奮ラサレルモノデハナ

ク、飽クマデ建設的ナ協調ニ依ツ

テ初メテ奮ラサレルコトデアリマ

ス、又今日被占領國家デアル日本

ノ立場ヲ忘レ、勞働者ト資本家ト

ガソレレノ立場ヲ固守致シマシ

テ、對立抗争スル所ナドニハ斷ジ

テ眞ノ産業再建ト云フモノハ見ラ

レナイノデアリマス、現業ノ民主

化ト云フモノハ、眞ニ秩序正シク

結局失敗ニ終ルコトハ世界ノ歴史

ニモ多ク之ヲ見ル所デアリマス、

茲ニ我ガ黨ハ爭議當事者間ニ於キ

マシテ、ドウシテモ解決ノ出來ナ

カツタ場合、公正ニ是ガ調停デア

ルトカ或ハ斡旋シヨウトスル本法

ノ制定ニ對シマシテハ、洵ニ時宜

ニ適シタ措置デアルトシテ賛成ヲ

スル者デアリマス、今月マデノ委

員會ニ於キマシテ、特ニ社會黨ノ

諸君ガ反對意見トシテ集中セラレ

マシタ點、第一ニ生産管理ヲ全面

的ニ否定スルト云フノハ不當デハ

ナイカ、第二ニ公益事業ノ爭議開

始マデニ、三十日間ノ期間ヲ設ケ

ルコトハ、之ヲ事前ニ彈壓スルモ

ノデアル、第三ニハ一般官公使ノ

爭議禁止ハ基本的ニ人権ヲ蹂躪ス

ルモノデアルト云フ意見ノ如クニ

承ルノデアリマスルガ、之ヲ一口

ニシテ言ヘバ恐ルベキ一種ノ誤解

デアル、此ノ點ニ對シマシテハ何

レ本會議ニ於キマシテ詳細私ハ論

駁ラシ、敢テ世間ノ誤解ヲ解カン

トスルモノデアリマス、延期說ヲ

言ハレマスル協同黨ハ措キマシ

シテ、社會黨ニ於キマシテ松岡駒

吉氏ハ本法原案作成ノ任ニ當ラ

レ、而モ其ノ際窮極贊意ヲ表シテ

居ラレルカニ承ツテ居リマス、勞

ガラ今全面反對ノ舉ニ社會黨ハ出デラレ、而モ一部勞働者ノ誤解ヲ一層深カラシメルガ如キコトハ、如何ニモ私共トシテ諒解ニ苦シム所デアリマス、既ニ「マツカーサ」司令部ニ於キマシテモ、極端ナル勞働運動指導者ハ指導者トシテノ適格性ヲ缺クト云フ見解ヲハツキリ發表シテ居ラレルノデアリマスガ、今日は等極端ナル指導者ニ誤ラレタルカノ傾向ヲ多分ニ見受ケラレマスル一部勞働者ヲ見ナガラニ、之ニ迎合的態度ヲ執ラレ、益々其ノ途ヲ誤ラシメルガ如キ社會黨ノ態度ハ、一體世論ヲ社會黨ハ御指導ニナラレルノカ、或ハ世論ニ依ツテ社會黨自體ノ態度ヲ決セラレルモノデアルカ、日本産業再建ノ途ヲ阻碍セントスル此ノ態度ハ、洵ニ今日公黨トシテノ面目又何レニアリヤト私ハ言ヒタイノデアリマス（拍手）私共自由黨ノ委員ソレトノ者ハ在京ノ勞働組合ノ代表者ハ勿論、我々ノ選舉區ニアル勞働組合ノ代表者達ノ訪問ヲ受ケタノデアリマス、私達ハ此ノ健全ナル勞働者諸君ノ誤解、誤ラレタル此ノ反對空氣ヲ眺メマシテ其ノ度毎ニ縷々其ノ誤謬タルコトヲ指摘シ、諒解ニ努メタノデアリマスガ、其ノ人達ノ一部ニ於キマシテハ若シモアナタ方ガ本法案ニ賛成ラシテ通過セラレルヤウナコトガアツタナラバ、我々ハ再ビアナタ方ニ一票ヲ投ジナイデアラウ

ト云フ言葉ヲ聽イタノデアリマス、又若シモアナタ方ガ敢テ此ノ法案ヲ強硬ニ押シ通サレヨウト云フノデアツタナラバ、我々ハ「ゼネスト」ヲ以テ之ニ對抗シヨウト云フ言葉モ聽イタノデアリマス、私共ハ日本ノ前途ヲ爲ニモ、勞働者諸君ガ若シモ「ゼネスト」ニ出ラレルガ如キコトガアツテハ絕對ニナラナイト云フ實ニ切實ナル感ニ打ラレテ居リマス、又會テハ私共ヲ支持シ、又私共若僧マデモ議會ニ送ツテ呉レタ所ノ健全ナル勤勞者諸君ガ、此ノ勞働關係調整法案ヲ繞ツテ再ビ一票ヲ投ゼズトシテ今日離レテ行カレルコトニ對シマシテハ一抹ノ淋シサヲ覺エルノデアリマス、サリナガラ私共ハ次期選舉ヨリモ現在日本ノ當面シテ居ル所ノ實情ノヨリ深刻ナルヲ思ヘバコソ、又現在課サレタル我々ノ任務ガ如何ニ重イカト云フコトヲ痛感スルガ故ニ敢テ之ニ賛意ヲ表シ、賛意ヲ表スルコトニ依ツテ必ズヤ現在誤解サレタル健全ナル勞働者諸君ノ疑惑モ解キ得ルト云フ固イ決意ニ燃エテ居ルモノデアリマス（拍手）我々ハ今日眞ニ日本全體ノ立場ニ立チ、日本ノ政治家トシテ使命ノ重キヲ感ジマスガ故ニ敢テ賛意ヲ表スル次第デゴザイマス

以上甚ダ簡單デバアリマシタガ、自由黨ヲ代表シタ所見ノ一端ヲ申述べ、尙ホ本法案通過ニ際シテ附帶決議トシテ次ノ事項ヲ取上ゲマス

附帶決議案

勞働組合運動ノ正常ナル發達ハ我等ノ常ニ深ク念ズルコロデア、平和ノ精神ヲ體シ過激ナル階級闘争ヲ却ケ勞資一體、生産増強ニ邁進スルコトコソ、荒廢セル日本ヲ再建スベキ必須ノ條件ナリト確信スル

本法ハ右ノ精神ニ基キ國家公共ノ福祉ト國務ノ遂行ニ支障ヲ生ズルコトナキヲ期スルモノニシテ寧ろ勞働運動ヲ健全ニ發展セシムルモノト認ム

唯本法實施ニ當リテハ勞働委員會ノ適切ナル構成運営ト共ニ次ノ三條項ノ實行ヲ強ク要望シテ本法ノ制定ニ賛成ス

一、政府ハ速カニ勞働者ノ生活ヲ深ク考慮セル勞働基準法案ヲ次期議會ニ提出スベシ

一、官使ノ待遇改善ニ關シ内閣ニ民主的ナル對策委員會ヲ設ケ萬全ノ措置ヲ講ズベシ

一、政府ハ本法施行ノ時日ニ就キ官公吏並ニ一般公益事業従業員ノ人格ヲ尊重シ、ヨロシク深甚ナル政治的考慮ヲ爲スベシ

此ノ點ヲ強ク政府ニ要望シ賛成演説ヲ終リタイト思ヒマス（拍手）

更ニ附帶條件ニ賛成致スモノデアリマス、自由黨ノ代表ハ、此ノ法案ニ賛成スル根本的ナ立場、更ニハ此ノ法案ニ對スル從來ノ經過並ニ意見ノ後ニ、數十分間ノ後ニ採決ヲ豫想セラレテ居ル所ノ運命ニ付テ十分ナ見透シヲナサレタ御議論ガアリマシタノデ、私ハソレニハ觸レナイデ置キマス、進歩黨ハ何故ニ此ノ法案ニ賛成スルカト云フ立場ハ自由黨ト同ジデアアルケレドモ、私ハ更ニ之ヲ附言致シタイ、此ノ法案ハ何等勞働組合運動ノ彈壓法デハナイ、何故彈壓法デナイカト言ヘバ、勞働者、資本家ガアツテ、其ノ間ニ爭議ガ勃發スル、其ノ際ニ國家公共ノ福祉ニ重大ナル影響ヲ持ツ所ノ事業、更ニハ又國務ノ遂行ニ多大ノ支障ヲ來スコトノ問題ニ付テ之ヲ調停セントスル必要ガアルコトハ、何人モ認メザルヲ得ナイ問題デアルト私ハ思フカラデアリマス、此ノ法律ト云フモノハ、之ヲ法律的ニ眺ムレバ極メテ平穩的ナ法律デアツテ何等ソコニ勞働者ヲ彈壓シ、或ハ資本家ヲ逆ニ壓迫スルト云フヤウナ法律デハナイコトヲ私ハハツキリ申上ゲテ置キタイト思フノデアリマス

第二ニハ世界ノ勞働運動ヲ見マスルニ、凡ユル國ニ於テ勞働爭議調停法ト云フモノガ成立ヲ致シテ居リマス、殊ニ先進國米英兩國、更ニハ其ノ流レヲ汲ム「カナダ」「オーストラリア」ノ國々ニ於テハ、勞働爭議ト云フモノハ、調停法ガ出來タ爲ニ極メテ圓滿ナル解決ヲ告ゲテ居ルコトハ周知ノ事實デアルト私ハ思フノデアリマスガ、日本ノ勞働組合ガ將來世界ノ勞働聯合ニ參加スルト云フ時期ニ於キマシテハ、ドウシテモヤハリ勞働爭議ノ調停ニ付テ、一ツノ劃然タル法律ヲ持ツテ居ラナケレバナラヌト私ハ思フノデアリマス、爭議ノ調停法ナクシテハ、世界ノ勞働組合ニ參加ヲスル一ツノ基礎的ナ條件ヲ喪失スルト云フコトヲ私ハ強ク指摘ヲ致シタイト思ヒマス

更ニ第三ニハ、是ハ一ツノ希望意見デアリマスケレドモ、此ノ法案ノ運命ハ懸ツテ今後ノ勞働委員會ノ公正ナル運用ニアルト思フノデアリマスケレドモ、先般私ハ本會議ノ質問演説ノ際ニモ、勞働委員會ノ適切ナル構成ト運営コソ、此ノ法案ヲ左右スルモノデアルト云フコトヲ申シタノデアリマスガ、勞働者ノ代表ト資本家側ノ代表ト、更ニハ又中立側ノ代表ガ眞ニ民主的ニ選出ヲサレルコトハ今日最モ要望サレル所デアリマシテ、政府ハ本案實施ニ付テハ、勞働委員會ノ公正ナル運営ト云フコトニ最大ノ力ヲ入レテ戴キタイト思フモノデアリマス

最後ニ私ハ本法實施ノ時期並ニ勞働基準法制定ノ問題ニ付テ、私

共自進兩黨が苦慮致シマシタ経緯
ニ付テ少シク説明ヲ致シタイト思
フノデアリマス、巷ノ聲ニハ、勞
働保護法ヲ先ツ先ニ出スベキデハ
ナカツタカ、或ハ労働保護法ヲ伴
ハズシテ労働調整法ヲ出スト云フ
コトハ本末ヲ顛倒スルト云フ意見
ガアル、私ハ邊カニ此ノ意見ニ贊
同スル者デハナイケレドモ、併シ
ナガラ労働者ノ最低生活ヲ保障ス
ル所ノ廣汎ナル労働立法ガ出來ズ
シテハ労働調整法ダケガ議會ニ先
ニ提出サレタト云フコトニ付テハ
多少意見ヲ持ツテ居ルカラシテ、
先程ノ議會ニ於テモ質問ヲ致シタ
ノデアリマス、ソコデ労働基準法
ハ今事務法審議會ノ手ニ於テ着
着草案ヲ脱稿シ、今ヤ最後ノ締括
リニ到達シテ居ルト云フ風ニ私共
ハ情報ハ受ケテ居リマスガ、其ノ
際ニ廣ク輿論ニ徴シマシテ、殊ニ
未ダ未聽取デアル所ノ政黨側ノ意
見モ十分ニ顧慮サレテ、労働基準
法ヲ作ラレルトコトガ望マシイト云
フコトヲ私共ハ強ク主張致シマス
ト共ニ、労働基準法ト此ノ法案ノ
實施ノ時期ニ付テハ、十分ニ顧慮
シテ戴キタイト思フカラシテ、附
帶條件ノ第三ニ、労働基準法ノ制
定ト云フ文字ハアリマセヌケレド
モ、此ノ調整法案ヲ實施スルニ付
テハ、十分ニ政治的情勢ヲ顧慮シ
テ實施ヲサレタイト云フコトヲ申
述ベテ居ル次第ナノデアリマス、
私共ガ此ノ法案ニ賛成致シマシタ

コトノ真意ニ付テハ、只今江崎議
員カラ言ハレタ通りニ、國家公共
ノ福祉ガ最も重大デアルト云フ點
カラ私共ハ此ノ法案ニ賛成ヲシ、
労働組合ノ正常ナル發展ヲ冀フコ
トカラシテ贊成ヲ致シタノデアリ
マス、先程江崎君ガ明確ニ指摘サ
レタル通り、我々進歩黨並ニ敬愛
スキベキ友黨自由黨ハ、今日國民
的政黨ノ立場ニ於テ正シキ判斷ヲ
ナサントシタモノデアリマス（拍
手）國民政黨カ階級政黨カト云フ
コトハ、労働調整法案ヲ繞ツテハ
ツクリシタル所ノ事實デハナイカ
ト云フコトノ私ハ結論ヲ中上ゲテ
贊成演說ヲ終リマス

○達澤委員長 辻井民之助君
○辻井委員 日本社會黨ニ於キマ
シテハ本法案ニ對シマシテ全面的
ニ反對スルモノデアリマス、私ハ
其ノ反對理由ノ主ナル點ニ付キマ
シテ、成ベク簡單ニ明カニ致シタ
イト考ヘマス、先ツ第一ニ中上ゲ
タイト思フコトハ、現在ノ労働争
議ノ發生ノ原因ニ付テデアリマ
ス、厚生省勞政局ノ調査ニ依リマ
シテモ明カナ通りニ、労働争議ノ
原因ハ實ニ今日ノ經濟情勢、社會
情勢ニ依ルモノデアリマス、今厚
生省勞政局ノ發表ニ基イテ之ヲバ
述ベマスルナラバ、本年一月ヨリ
三月マデニ至ル間ノ争議原因三百
六十二件ノ中、生活不安ニ因ルモ
ノガ實ニ二百九十一件ノ壓倒的多
數ヲ占メテ居ルノデアリマス、又

争議要求ニ付キマシテハ千三百二
件ノ中、賃金引上要求ガ實ニ三百
二十八件ノ第一位ヲ占メテ居ルノ
デアリマス、此ノ事實ヲ以テ見マ
シテモ、今日ノ労働争議ガ實ニ社
會不安ノ結果窮乏セル生活ヲ打
破ル爲ニ、最低生活ヲバ擁護セン
ガ爲ノ已ムニ止マレナイ要求ニ出
テ居ルコトハ明カデアルト考ヘマ
ス、更ニ本年二月六大府縣ニ於ケ
ル工業ニ従事スル男女従業員平均
ノ賃金ヲ調べテ見マス、前年十
月ニ比較致シマシテ約三倍、又前
月ニ比ベマスト九%ノ増額ヲバ來
シテ居ルノデアリマスルガ、此ノ
賃金ノ増額ガ何レモ争議ノ結果ト
シテ得ラレタノデアリマシテ、決
シテ資本家側ガ自發的ニ一齊ニ、
普遍的ニ經濟情勢ニ即應セシムベ
ク労働者ノ最低生活ヲ保障スル爲
ニ引上ゲタノデハナイコトハ、何
レモ是レ亦厚生省ノ調査ニ依ツテ
明カナツテ居ル所デアリマス、
我が國ノ現下ノ情勢ニ於キマシテ
ハ、労働者ガ辛ウジテ生活ヲ支ヘ
ンガ爲ニモ、争議ニ懇ヘルヨリ外
ニ途ガナイノデアリマス、且ツ争
議ニ依ラナケレバ僅カニ最低生活
ノ保障スラ期シ得ラレナイト云フ
事實ヲバ、以上ノ統計ハ明カニ示
シテ居ルノデアリマス、故ニ社會
的情勢ノ上カラ考ヘマシテモ、争
議ハ實ニ正當ナル生活權ノ擁護手
段デアリマス、業種、業態ニ依ツ
テ此ノ權利ノ行使ニ區別ヲ設ケル

コトハ絕對ニ不合理デアルト言ハ
ナケレバナラヌト考ヘマス、争議
ノ原因ガ主トシテ生活不安ニアル
以上、此ノ主因ヲ除クコトナクシ
テ唯一片ノ法律ヲ以テ其ノ結果ノ
ミヲ拘束シヨウト致シマスルコ
トハ、要スルニ労働階級ノ生活權
ヲ否定スルニ等シイノデアリマ
ス、争議權ハ労働組合ニ依ツテ
確認サレタ労働組合ノ基本的ナ權
利デアリマシテ、労働ガ一箇ノ商
品トシテ取扱ハレテ居ル資本主義
制度ノ今日ノ我が國ニ於キマシテ
ハ、争議權ノ確保ナクシテ商品タ
ル労働力ノ取引ヲ有利ナラシメル
コトハ絕對ニ不可能デアリマス、
換言スレバ資本主義ノ下ニアツテ
ハ争議權ト労働權トハ全ク不可分
ノ關係ニアルノデアリマス、隨テ
又争議權ノ否定ハ實ニ労働權ノ否
定ニ外ナラヌト言ハザルヲ得ヌ
デアリマス、本法制定ノ眼目トス
ル所ガ所謂公益事業ニ於ケル労働
争議ノ制限及ビ官公吏ノ争議禁止
ニアルコトハ疑ヒラ容レナイノデ
デアリマス、而シテ政府ハ前者ノ規
定ニ付キマシテハ三十日ノ制限ハ
争議ノ禁止デハナイ、單ニ豫告期
間ヲ設ケタノデアツテ、決シテ禁
止デハナイト言ヒ、又官公吏ニ對
シマシテハ國又ハ公共團體ノ現業
以外ノ行政又ハ司法ノ事務ヲ保障
スル爲メノ已ムヲ得ザル措置デア
ルト稱シテ居リマス、併シナガラ
若シ公益事業デアアルガ故ニ其ノ從

業員ガ他ノ一般企業ノ労働者ヨリ
モ争議ニ關シテ不利ナ制限ヲ受ケ
ネバナラヌトシマスルナラバ、其
ノ代償トシテ當然生活ノ保障ヲ與
ヘネバナラヌノデアリマスガ、數
回ニ互ル此ノ委員會ニ於キマシ
テ、私ハ或ハ司法大臣或ハ厚生大
臣ニ、或ハ文部大臣ニ内務大臣ニ
繰返シ、斯様ニ團結權ヲバ否定
シ或ハ争議ヲ制限シ、其ノ權利ヲ
剝奪スル以上ハ、争議ヲ起サナク
テモ最低生活ノ保障ヲ與ヘル等
カノ考慮ガアルカト云フコトヲバ
質問シタノデアリマスガ、何等ノ
施策モ考慮モ持ツテ居ナイト云フ
コトガ本委員會ニ於テ暴露セラレ
テ居ルノデアリマス、又本法案ヲ
見マシテモ是等ニ對シテハ何處ニ
モ何等ノ規定モセラレテ居ナイノ
デアリマス、而モ本法ニ規定シテ
居ル公益事業ノ中ニハ、例ヘバ運
輸デアルトカ電氣又ハ「ガス」デ
アルトカ醫院等ノヤウナ公衆ノ用
ニ供スル事業デアアルガ、而モ私
的經營ニ委ネラレテ居ルモノガ少
クナイノデアリマス、公益ノ性質
ヲ有スル事業ヲバ利潤追求ヲ目的
トスル私的經營ニ任セテ置キナガ
ラ、單ニ事業ノ公益性ノ故ヲ以テ
從業員ノ争議權ノミヲ制限スルノ
ハドウ考ヘテモ明カニ不合理デア
ルト共ニ不正デアルト言ハザル
ヲ得ヌノデアリマス、全國ノ關係
労働者ガ猛烈ニ反對スルノハ決シ
テ無理デハナイト私ハ言ハザルヲ

得ヌノデアリマス、全國ノ關係
労働者ガ猛烈ニ反對スルノハ決シ
テ無理デハナイト私ハ言ハザルヲ

得ヌノデアリマス、全國ノ關係
労働者ガ猛烈ニ反對スルノハ決シ
テ無理デハナイト私ハ言ハザルヲ

得ヌノデアリマス、爭議モ亦勞資間ニ於ケル一ツノ戰爭デアリマス、國際間ニ平和ヲ提唱スル我が國ガ國內ニ於テ闘争スルコトハ怪シカラス、又聯合軍ノ進駐下ニ於テス様ナコトハ怪シカラス、ス様ナコトヲ江崎君ハ申サレタノデアリマスガ、今日勞働組合ガ制定セラレルニ至リ、又勞働組合ガ敗戦以來續々ト擡頭シテ参リマシタノハ是ハ、明カニ日本ヲ民主化スル爲ニハ勞働組合ノ發達ガ最も大キナカヲ致スモノデアルト云フ聯合軍ノ指令ニ基イテ實現シタノデアリマス(拍手)

占領下デアレバアルダケニ今日マデ抑壓ニ抑壓ヲ加ヘラレ、彈壓ニ彈壓ヲ加ヘラレ、而モ支配の地位ニ居ル所ノ保守勢力ハ相變ラズ封建的ナ保守的ナ頭ガ拔ケ切ラナイ、現状ヲバ飽マデモ維持シヨウト努メテ勞働階級、勤勞階級ノ上ニ壓力ヲ加ヘテ居ル、此ノ日本ノ封建性、此ノ保守的ナ反民主的ナ勢力ヤ思想ヲバ粉碎シテ、日本ノ民主化ヲ圖ル爲ニハドウシテモ勞働階級、勤勞階級ガ團結シ、組合ヲ作りマシテ、自分ガ日本再建産業復興ノ爲ニ甘ンジテ邁進シ得ル所ノ最低生活ノ保障ヲ得ンガ爲ニハ、彼等頑冥ナ舊勢力ニ對シテ堂々ト闘フヨリ途ハナイノデアリマス(拍手)飽マデモ合法的ニ闘フヨリ途ハナイノデアリマス、是ハ斷ジテ占領政策ト矛盾スルモ

ノデモナク、又國際平和ヲ主張シタ我が國ノ建前ト矛盾スルモノデモナイト私ハ確信致スモノデアリマス

斯様ニ我々ハ爭議ハ勞働者ガ一身ヲ守ル爲ノ已ミ得ザル所ノ最後ノ手段デアルト考ヘテ居リマス、爭議モ亦斯様ナ意味ニ於キマシテ一ツノ戦ヒデアル、戦ヒニハ戰機ト云フモノガアル、適當ノ時期ニ起テ上ガラナケレバ勝テハヒモ勝ツコトガ出來ナイ、正當ナ要求モ之ヲ貫クコトガ出來ナイ、然ルニ日本ノ現状ニ於テ若シ勞働爭議ヲ起スノ三三三ノ期間ヲ設ケラレト云フヤウナコトニナリマスルナラバ、明カニ是ハ戰機ヲ失シテシマウ、時機ヲ失ツテシマウ、而モ組合側、勞働者側ニ對スル三十日ノ制限ノ期間ニ於テ、資本家側使用者側ガ如何ニ勞働組合ヲ切り崩サウトモ、凡ユル陋劣ナル手段ニ出デヤウトモソレニ對シテ何等ノ制限ガ加ヘラレテ居ナイ、之ヲ抑ヘル何等ノ條項モ本法案ニハ設ケラレテ居ナイノデアリマス、讀賣ノ爭議ヲ見マシテモ明カデアリマスヤウニ、最近全國ニ資本家側ガ反動政勢ニ出デ居リマス、至ル所ニ我々ハ左様ナ事實ヲ體驗シテ居ルノデアリマスガ、資本家側ハ必ず勞働者側ニ對シテ猛烈ニ凡ユル陋劣手段ヲ講ジ、切崩シヲ行フ、三十日間爭議ヲ禁止スル、サウシテ其ノ間ニ資本家側

ハ決シテデツトシテ居ナイ、凡ユル陋劣ナル手段ヲ以テソレニ對抗シテ來ル、之ニ對シテ勞働組合側ニ何等ノ保障モ與ヘラレテ居ナイ、是レ程片手落ちナコトハナイト私ハ考ヘルノデアリマス、故ニ三十日間ヲ禁止ハ取りモ直サズ、是ハ勞働爭議ヲ禁止スルニ等シイ結果ヲ持チ來サルヲ得ナイト言ツテ差支ヘナイト思ヒマス、又官公使ノ爭議ニ關シマシテハ、其ノ職責ノ性質上ヨリ見テ、特ニ行政司法等ノ國務ニ重大ナ支障ヲ及ボスベキ危險ハ必ずシモ絶無デハナイト我々モ亦考ヘマス、併シ官公使ノ上層ニアル少數ノ支配の官僚ハ別ト致シマシテ、單ニ事務ニ從事スル最多數ノ下級官公使ガ勞働者ニ比シテ、寧ロ劣ツタ生活條件ノ下ニアリマシテ、而モ豫算、給與令等ノ關係ニ拘束セラレマシテ、容易ニ給與ノ値上げノ要求モ實現サレナイ不利ナ事情ニアルコトハ中スマデモナイノデアリマス、我々ハ官公使ノ爭議ヲ認容スレバ、官僚的ノ支配ノ復活ヲ嚮ラシ官僚ガ其ノ爭議ヲ反政府的ノ側面運動ニ利用スルノ危險ヲ胚胎スルト云フ一部論者ノ意見ニ對シマシテハ斷乎トシテ反對スルモノデアリマス、勞働組合運動ノ發展ガ官僚組織ノ中ニ勤勞階級意識「プロレタリア」ノ意識ヲ注入シテ、下級官公使ノ「プロレタリア」的自覺ヲ促進スルコトハ、第一次世界大戰後

ノ「イギリス」ヤ「ドイツ」ニ顯著ニ現ハレタ所デアリマス、日本ニ於テモ官公使ノ勞働組合運動ノ發展ハ、反動的ナ支配の官僚ガ制壓スル官界ヲ民主化スル上ニ絶對ニ必要デアリ、隨テ現ニ官公使ノ間ニ發展シツ、アル勞働組合運動コソ論者ノ變フルガ如キ反政府運動ナドニ官使ノ勞働組合ヲ利用スルトカ、サウ云フ運動ニ行ク處レガアルト變ヘル如キ上層ノ支配の官僚ガ、側面運動ニ爭議ヲ利用スル危險ニ對シテ、却テ下級官使大衆ノ批判ト抑制トノ保證ヲ提供スルモノデアルト我々ハ考ヘルノデアリマス、官公使ノ爭議ガ反政府の行動ニ利用セラレル危惧ト反對トハ、唯ソレガ反動的ナ意圖ニ依ツテ行ハレタ場合ニ對シテノミノ理由ガアリマス、一般勞働組合ニセヨ、官公使ノ組合ニセヨ、彼等ノ政治的、經濟的行動ノ自由ガ政府ヲ援助スル支柱トナルカ、又一部ノ變フルガ如ク、政府ノ生命取りニナルカト云フコトハ、懸ツテ政府ガ彼等勤勞官公使ノ生活ノ安定ト、民主主義的自由ノ爲ニ如何ニ有効適切ナル熱意ト手段トヲ講ズルカ否カニ依ツテ決定サレルノデアルト我々ハ考ヘルモノデアリマス、我々ガ本法ノ根柢ニ於テ看取スル所ハ、即チ實ニ勞働階級及ビ一般勤勞大衆ニ對スル政府ノ不信猜疑デアル、我々ハ勿論現下ノ情勢下ニ於キマシテ、濫リ

ニ爭議ノ勃發スルコトニ對シテ變慮ヲ禁ジ得ザルモノデアルトハ固ヨリデアリマス、併シナガラ勞働者ガ好ンデ爭議ニ出ルガ如ク想像スル程誤ツタ考ヘハナイノデアリマス、爭議ハ勞働者ニ取ツテハ、賃金ノ喪失、失業ノ危惧、生活ノ窮迫ヲ意味シソレニ對スル絶對絶命ノ手段デアリマス、而モ其ノ辛苦ト犠牲トヲ忍ンデ、尙且ツ爭議ニ訴ヘナケレバナラナイ所以ハ、政府モ資本家モ理窟ニ依ツテハ説得スルコトガ出來ナイト云フ、此ノ嚴然タル事實ニ因ルモノデアリマス、同ジ問題ニ對シテ連日數回ニ亘ツテ討議ヲ致シマシテモ、自由黨、進歩黨ノ諸君ト我々トハ全クソレニ依ツテ得ル所ガ違ツテ居ル、理窟ニ依ツテハ全然解決シナイ場合ガアルト云フコトハ、此ノ委員會ニ於ケル一事ヲ見マシテモ明カデアリマス、多年ノ壓迫カラ突如トシテ解放サレ而モ未曾有ノ政治的、經濟的、社會的混亂ノ中ニ投ゼラレタ勞働者ガ、其ノ生活上ノ苦境ヲバ打破ラントスル行動ノ上ニ多少ノ行過ギガアツタト致シマシテモ、是ハ組織運動其ノモノノ發達ト育成ノ過程ニ於テ自然ニ是正サレル問題デアリマス、然ルニ單ニ一、二ノ多少ノ行過ギガアツタトカ、或ハ失敗ガアツタト云フヤウナコトヲ以テ、此ノ根本的ナ施策ヲ後ニ致シマシテ、唯法律ヲ以テ行動ノ自由ヲ東

縛セントスルガ如キハ、所謂角ヲ
婦メテ牛ヲ殺サントスル類デアル
ト言ハザルヲ得ヌノデアリマス、
而シテ其ノ根本原因ハ勞働者ハ無
智蒙昧デアリ、貪慾デ徒ラニ爭議
ヲ弄ビ或ハ一部少數ノ指導者ガ大
衆ノ意思ニ關係ナク、任意ニ爭議
ヲ捲起スコトガ出來ルト云フヤウ
ナ、實ニ馬迦ダ政府ノ獨斷迷妄
ニ外ナラヌノデアリマシテ、勞働
爭議ノ禁壓法ガ存スルコトト、勞
働爭議ガナクナルコトトハ別箇ノ
問題デアリマス、爭議ノ原因ヲ除
クコトニ努メ、勞働組合ノ自由ト
權利トヲ保護シ、政府ガ心カラ勞
働階級ヲ信頼シテ、民主主義日本
建設ノ爲ニ其ノ全幅的ナ協力ヲ求
メルコトコソ、現下ノ情勢ニ應ジ
タル勞働政策デナケレバナラヌト
我々ハ確信スルモノデアリマス
今日全國ノ勞働階級ハ實ニ猛烈
ニ本法案ニ反對ヲ致シテ居リマ
ス、數萬ノ勞働者ガ議會ノ周圍ニ
デモ行進ヲ行ヒ、此ノ炎熱下ニ而
モ街路ニ何萬ノ勞働者ガ空腹ヲ抱
ヘテデモ行進ヲ行フト云フコトハ
決シテ生優シイオ道樂デ出來ル運
動デハナイノデアリマス、又議會
開會以來連日ノ如ク全國ノ勞働者
ノ大會ガ開カレマシテ、本法案ニ
反對ヲシ、多クノ代表ハ續々ト上
京シテ我々ニ反對ノ陳情ヲ致シテ
居ルコトハ、是レ亦政府當局ヲ初
メ自由黨ノ諸君モ進歩黨ノ諸君モ
十分ニ御存ジニナツテ居ル所デア

リマス、本法案ニ對シテ彼等勞働
階級ガ全面的ニ反對シテ居ルコト
ハ、取りモ直サズ現内閣ノ資本案
の性格ト資本主義的施政トニ對ス
ル勞働階級ノ不信任ヲ表現スルモ
ノデアリマス、民主主義日本再建
ノ基礎タルベキ産業ノ復興、生産
ノ再建ハ勞働階級ノ全幅的ナ協力
ヲ得ルニアラザレバ絕對ニ不可能
デアリマス、而シテ勞働階級ハ祖
國日本ノ救済ノ爲メニ、産業復興
ノ熱意ヲ傾注披瀝シテ居ルニモ拘
ラズ、政府ガ勞働階級ノ全面的反
對ヲ押切ツテ本法ヲ強行セントス
ルナラバ、其ノ勞働者ニ及ボスベ
キ心理的影響ハ實ニ重大デアルト
言ハナケレバナリマセヌ、燃エ上
ガル彼等ノ日本再建ヘノ熱情ヲ挫
折粉砕スルニ至ルデアラウト我々
ハ憂ヘザルヲ得ヌノデアリマス
本法案ノ目的ト致シマシテ「勞
働爭議ヲ豫防シ、又は解決して、
産業ノ平和ヲ維持シ、もつて經濟
ノ興隆ニ寄與する」云々ト謳ハレ
テ居ルノデアリマス、若シ此
ノ勞働階級ノ猛烈ナ反對ヲ押切ツ
テ此ノ法案ガ通過ニ無二通過致シマ
スルナラバ、却テ此ノ目的ニ相反
シテ結果ヲ惹起シ、産業平和ノ維
持トハ凡ソ反對ナル社會不安ヲ我
我ハ憂慮セザルヲ得ヌノデアリマ
シテ、斯様ナ立場カラ我ガ日本社
會黨ハ本法案ニ對シマシテ絕對ニ
反對ヲスル次第デアリマス
○邊澤委員長 東隆君

○東委員 協同民主黨ハ本法案
ヲ、次ニ提出サレルト御約束ニナ
ツテ居リマス勞働基礎法ト一緒ニ
審議ヲセラルコトガ宜イノデハ
ナイカ、斯ウ云フ考ヘデアリマ
ス、隨テ是ガ認メラレマセヌ以上
ハ反對ニナル譯デアリマス、ソコ
デ理由ヲ申上ゲマス、第一番目ノ
理由ハ、本法ノ中デ規定ヲサレテ
居リマス所ノ公益事業ノ再建ト官
公吏ノ爭議權ノ禁止、此コトヲ
除キマス、本法ハ勞働組合法或
ハ次ニ生マルベキ勞働基礎法ノ施
行規則、サウ云フモノニ依ツテ當
然出來上ルノデハナイカト考ヘル
譯デアリマス、サウ云フ觀點カラ
考ヘ、公益事業ト云フ點ニ付テ考
ヘマス時ニ、私益事業ト云フモノ
ガ公益事業ノ中ニ入ツテ居ル、是
ハ公平ナ立場カラ言ツテ公益事業
ノ名ニ隱レテ、私益事業ニ於ケル
勞働者ノ爭議權ガ抑壓サレテ居
ル、斯ウ云フ點面ガ非常ニアルノ
デ、此ノ點ニ付テ私ハ反對デアリ
マス
其ノ次ニ官公吏ガ本法ノ成立ヲ
中心ニシテ動搖シテ居ルト云フコ
トハ現實ノ問題デアリマシテ、之
ヲ否定スルコトハ出來ナイノデア
リマス、隨テ斯ウ云フヤウナモノ
ヲ今早急ニ出スコトニ依ツテ反對
ヲ起ス、サウ云フヤウナコトハ執
ラナイ方ガ宜イト云フ意見デアリ
マス
其ノ次ニ官吏ガ爭議ヲ起サナ

イ、斯ウ云フコトヲ政府ノ方デ言
ハレテ居リマスガ、若シサウ云フ
確信ガアリマスルナラバ、空文ノ
ヤウナモノヲ存置スル必要ガナイ
ト考ヘマス、同時ニ私ハ斯ウ云フ
法律ヲ出ス以前ニモウ少シ先ニ出
サルベキモノ或ハ打ツベキモノガ
アラウト思フ譯デアリマス、今問
題ニナツテ居ル爭議ノ中心ハ生活
問題デアリマス、隨テ之ヲ解決ス
ル爲ニハ私ハ形式的ナ待遇ノ改
善、サウ云フヤウナモノニ依ツテ
ハドウシテモ解決ハ付カナイと思
フ、實質的ナ生活ノ改善トナリマ
スト、私ハドウシテモ形式的ナ賃
金デハナクテ、實質的ナ賃金ニ行
カナケレデナラヌト思フ、ソレヲ
最モ旨クヤツテ行クノハ協同組合
デアルト思フノデアリマス、隨テ
勞働調整法ヲ出ス前ニ少クトモ協
同組合、サウ云フヤウナモノニ付
テ是ガドウシテモ先行ヲシナケレ
バナラヌ、斯ウ云フ確信ヲ持ツ者
デアリマス
次ニ私ハサウ云フヤウナ協同組
合ヲ通シテ勞働階級ノ消費面ニ於
ケル所ノ教養、協同組合ニ依ツテ
教養ヲ高メテ行ク、斯ウ云フヤウ
ナ方法ガ構セラレナケレバナラ
ヌ、斯ウ云フ點デアリマス、併セ
テ此ノ法案ヲ出ス前ニ勞働者ニ關
係ヲ持ツテ居リマス所ノ保險或
ハ共濟關係ノ事業ヲ全面的ニ推進
メル、斯ウ云フコトヲ前提條件ニ
置イテ私ハ先程ノヤウニ勞働ノ基

礎法ヲ中心ニシテ、今回ノ問題ヲ
併セテ審議ヲスルガ宜イト思フ、
斯ウ云フ風ニ考ヘルノデアリマス
○邊澤委員長 次ニ野本品吉君
○野本委員 新政會ヲ代表致シマ
シテ、本案ニ對シマシテ遺憾ナガ
ラ反對ノ意ヲ表セザルヲ得ナイノ
デアリマス、言フマデモナク政治
ノ要諦ハ國民ヲシテ政府ヲ信頼セ
シムルニアルノデアリマス、併シ
國民ヲシテ政府ヲ信頼セシムル爲
ニハ先ヅ政府ガ國民ヲ信頼シナケ
レバナラヌト云フコトデアリマ
ス、政府ガ國民ヲ信頼スル所、ソ
コニハ國民ノ強キ責任感ガ起キマ
シテ自奮自勵國家ノ繁榮、産業ノ
興隆ニ協力スル態勢ト機運トヲ醸
成スルコトハ當然デアリマス、之
ニ反スル態度ニ出マシタ時ニ國民
ハ退嬰的トナリ消極的トナリ、一
歩過ギレバ反抗的態度ニ出ルコト
ハ是ハ亦言フ俟タナイノデアリ
マス、斯様ナ觀點カラ本法案ヲ見
マス時ニ此ノ法案ガ全國ノ勤勞者
ニ、果シテ政府ガ我々ヲ信頼シテ
我々ノ責任ト我々ノ自覺ニ如何ニ
期待シテ居ルカト云フ風ニ考ヘサ
セタカ或ハ自主的ナ自立的ナ努力
ニ依ツテ日本ヲ再建シヨウトスル
意慾ニ「ブレイキ」ヲ掛ケルモノ
デアルト感じサセタデアリマセウ
カ、私ハ遺憾ナガラ全國ノ勤勞大
衆ハ少クトモ彼等ノ盛上ツテ來ル
勤勞意慾ニ「ブレイキ」ヲ掛ケル
モノトシテノ印象ヲ受ケタト思フ

ノデアリマス

次ニ労働組合が公ニ認められマシテ全國ニ幾多ノ労働組合が發生シマシタガ、此ノ組合が誕生シテ未ダ半年ニナラナイノデアリマス、此ノ半年ノ期間ニ先程モ御意見ガアツタヤウデアリマスガ、多少ノ行過ギアリ、遺憾ナ點ガナイデモナイト思ヒマスケレドモ、一部ノ者ノ考ヘヲ以テ、所謂一斑ヲ以テ全豹ヲ律スルト云フヤウナモノノ考ヘ方ハ、少クモ日本ノ労働運動ヲ正常ニ健全ニ育成スル指導的立場ニアルモノノ考ヘトシテハ私共ハ賛成シ得ナイノデアリマス、是ハ恰モ子供ガ少シイタヅラヲシタト云フノデ其ノ子供ノ逞シキ發育ヲ若芽ノ中ニ弱體化シヨウトスル結果サヘモ惧レラレルノデアリマス

次ニ此ノ法案ガ少數者ノ企畫及ビ支配ニ依ツテ對立のナ生活ノ中ニ追込マレテ居ツタ労働者ヲ、自主的ニ自律的ニ自ラノ努力ニ依ツテ運命ヲ開拓シ、國運ノ繁榮ニ寄與シヨウトスル氣持ヲ抑ヘタ、即チ労働者ヲ解放シテ、彼等ノ全能力ヲ日本ノ爲ニ貢獻サセヨウトスル労働組合法ノ制定セラレタ當時ノ考ヘ方及ビアノ精神ト完全ニ一致スルモノデアラカドウカト云フ點ニ疑ヒヲ持ツモノデアリマス、次ニ官公吏ノ爭議禁止ノ問題ニ付キマシテハ、先程縷々御話ガアリマシタカラ私ハ諒クハ申シマセヌ

ガ、第一ニ申シマシタヤウニ、國民ヲ信賴スルコトニ依ツテ善キ政治ガ行ハレルト云フ立場カラ申シマスナラバ、官公吏ハ政府ニ取リマシテハ可愛イ子デアリ弟妹デアリマス、此ノ子女弟妹ノ運動ニ對シテ餘リ「ブレイキ」ヲ掛ケル如キコトハ是亦賛成シ得ナイノデアリマス、事實我々ノ直接會ヒマシタ官公吏ノ人達ハ、我々ハ決シテ我々ノ運動ヲ爭議權トシテ行ハウトスルノデハナイ、正當防衛權トシテ行ヒタイノデアル、現實ニ迫ツテ居ル此ノ生活ノ不安ヲドウシテ解決スルカ、生活ヲ擁護シ、其ノ不安ヲ除去スルコトハ我々ニ與ヘラレタル正當防衛權トシテ考ヘ

ル、斯ウ言ウテ居ル者ガ多イノデアリマス、私ハ爭議權ノ起因ト云フヨリハ、寧ロ此ノ正當ナル生活ヲ擁護シ、生活ヲ防衛シテ行ク要求ヲ多少デモ抑ヘルガ如キコトハ我々ノ斷ジテ執ラナイ所デアリマス

更ニ私ハ想ヒ起スコトガアリマス、ソレハ一般的ニ考ヘマシテ、法律ヲ濫發致シマシテ、國民ノ自由ヲ濫刺タル活動ヲ拘束スルコトハ、今マデノ日本ノ政治ノ一ツノ宿弊デハナカツタカト私ハ考ヘマス、私ハ會テ滿洲國ニ於キマシテ次ノ如キコトヲ耳ニ致シマシタ、滿洲國ニ三ツノ匪賊ガアツタ、其一ツノ匪賊ハ兵匪デアアル、是ハ兵隊上リノ匪賊デアアル、一ツノ匪

賊ハ土匪デアアル、是ハ地方ノ無賴漢ノ集マツタモノデアアル、モウ一ツノ匪賊ハ法匪デアリマス、法匪即チ法律ノ匪賊デアリマス、此ノ法匪ト云フ名前ハイツカラ生レタカ、是ハ日系官吏ガ餘リニモ法律ヲ失禮早ニ之ヲ作ツテ、民衆ノ自由ヲ濫刺スル思想行動ヲ抑ヘントシタコトニ對スル反撥デアリマス

○達澤委員長 細道兼光君
○細道委員 無所屬俱樂部ヲ代表シテ反對ノ意見ヲ申述バマス、大體本案ニ反對ノ趣旨ハ、既ニ社會黨ノ鈴木君カラ縷々述べラレマシタノデ、多クヲ加ヘル必要ハナイノデアリマスガ、少シク補足ヲ致シタイト思ヒマス、色々ナ反對理由モアリマセウガ、要スルニ其ノ根底、其ノ中心のナルモノハ、官公吏ノ罷免禁止、公益事業ノ罷免ノ制限、茲ニ集中セラレルモノダト思フノデアリマス、今ヤ俸給生活者ハ急激ナル没落過程ヲ迎ツテ居リマス、官公吏ト雖モ此ノ列外ニアルモノデアナイノデアリマス、然ルニ此ノ官公吏カラ全然罷免權ヲ剝奪シヨウトスルモノデアアル、又資本家ノ收益利得ハ公認シテ而シテ公益事業ニ携ツテ居リマ

ス労働者ノ攻撃方法ヲ禁止シヨウ、制限シヨウトスルモノデアリマシテ、少クモ公平デナイ、謂ハバ不當ト見ナケレバナラスモノデアツテ、其ノ根柢ハ民主的ノ精神ニ反スル、之ヲ禁止シ或ハ制限シヨウトスル御心配ハ無暗ニ爭議ヲ起サレテハイケナイ、斯ウ云フ所ニアルヤウデアリマス、併シナガラ先ニ鈴木君ガ申サレタヤウニ爭議ハ決シテ生易シク起サレルモノデアナイノデアリマス、其ノ間賃金ヲ貰フコトモ禁止サレ、賃ハナクテハ自分ノ生活モ苦シクナル或ハ其ノ間切崩シガアツテ組合ハ分裂スルト云フ危險モアル、色々ナ危險ヲ目シテ已ムニ已マレズ爭議ト云フモノハ起ルモノデアアル、或ハ一部ノ煽動家ニ依ツテ起サレルト云フコトモ反對センガ爲ニ反對スル論トシテ言ハレルノデアリマスガ、決シテ左様ナモノデハナイ、是ハ水ノ中ニ三百「キロ」ノ焼夷彈ヲ落シテモソコニ火ハ移ラナイノデアリマスガ「ガソリン」ノ傍デ「マツチ」一本擦ツテモ、「ガソリン」ニ燃エ付クノデアリマス、爭議ガ勃發スルカシナイカハ煽動家ガアルカナイカノ問題デナクテ、ソコニ爭議ガ勃發スルカドウカト云フ本質ガアルカナイカニ依ルノデアリマス、水ニ幾ラ、「マツチ」ヲ擦リ付ケタツテ燃上ルモノデアナイノデアアル、サウ云フヤウナ已ムニ已マレザル最後ノ

方法トシテ起ル此ノ爭議ニ對シテ、無理ニ法律デ決メナクテモ、労働者ハ決シテ無暗失鱗ニヤルモノデアナイ、而モ官公吏或ハ公益事業ニ於ケル關係者ノ如キハ國民大衆トハ利害關係ガ非常ニ多イノデアリマス、爭議ニ勝タウト思ハバ國民大衆ノ支持ガナクテハ出来ナイ、是ハ労働者ノ健全ナル判斷官公吏ノ人格、常識、責任觀ニ信賴シテ宜シイ、ソレデ爭議ヲヤツタナラバ決シテ國民ノ支持ハ受ケラレナイ、國民ニ迷惑ヲ掛ケルト云フヤウな場合ニハ、爭議ハ勝利ノ見込ナシトシテヤラナイノデアアル、ソコニ賢明ナル判斷ガ行ハ

ラルト、矢鱈ニ起ルモノデアナイノデアアル、大イニ是ハ労働者ノ、或ハ官公吏ノ人格ヲ尊重シ、其ノ判斷ト常識、責任觀ニ任セテ宜シイ問題デアルト思フノデアリマス、是デ反對ノ根本理由ハ述べマシタガ、進ンデ之ニ賛成ナサル議論ニ多少ノ批判ヲ加ヘテ賛成スルコトノ不當デアルコトヲ申述べ、反對論ノ一層ノ強化ヲ致シタイト思フノデアリマスルガ、附帶決議ト云フヤウナモノハ大シタ力ノアルモノデアナイコトハ從來ノ事實ニ依ツテ明カデアリマス（「ノー」）

「從來ノ政府ト性質ガ違フ」「政黨政治デハナイ」ト呼ブ者アリ）尙ホ自由黨ノ方ノ御言葉ノ中ニ、世界平和ヲ主張シナケレバナラス此ノ際ニ國內デ爭フト云フ如キコ

トハイケナイト云フ御趣旨ノ所ガ
アツタノデアリマスガ、此ノ言葉
ハ私ハ突詰メテ行キマスナラバ、
労働組合ハナイ方ガ宜イノダ、斯
ウ云フコトニナルノデアリマス、
ソコニ労働組合ハ何ノ爲ニ出来
タ、労働者ノ生活擁護ノ爲ニハ勞
働爭議モ場合ニ依ツテハヤルト云
フ爲ニアルノデアリマス、ソレガ
ナケレバ労働組合ハナイ方ガ宜イ
争ヒヲシナイ方ガ宜イト言フナ
ラ、労働組合ハナイ方ガ宜イ、何
ノ爲ニ労働組合ヲ認メルノカ、結
局其ノ思想ハ、國民的立場、或ハ
國民的ナ政黨、斯ウ云ツタ言葉ヲ
言ハレマスルケレドモ、併シナガ
ラヤハリ是ハ客觀的ニ見マスレバ
資本家ノ利益ヲ擁護スル立場デア
ルト思フノデアリマス(拍手)斯
ウ斷ゼザルヲ得ナイ、ソレハ労働
組合ト云フモノガナイ方ガ宜シ
イト云フコトハ、新シイ衣ヲ着
テ、新シイ洋服ヲ着テ現ハレマシ
テモ、本質ニ於テハ結局労働組合
ハナイ方ガ宜シイト云フ所ノ東條
首相ノ其ノ思想ノ裏返シデアル、
東條サンモ労働組合ハナイ方ガ宜
シイト云ツテ是ノ抹殺ニ努メタノ
デアリマス

〔發言スル者多シ〕

○**逋澤委員長** 靜肅ニ願ヒマス
○**細迫委員** 其ノコトノ本質ハソ
コニアル、大體其ノ人達ガ主觀的
ニドウ考ヘテ居ルカト云フコトカ
ラ決マルノデハナク、客觀的ニド

ウデアルカト云フコトニ依ツテ決
マル、私ハ自由黨或ハ進歩黨ノ人
ニ知合ガアツテ、非常ニ公正ナ御
考ヘノ方ガアルコトヲ能ク知ツテ
居ルノデアリマス、併シナガラ其
ノ主觀的ナモノニ依ツテハ決マラ
ナイ、東條サンモ忠誠ノ途ヲ行ク
ト云フヤウナ御考ヘデアツタ、サ
ウ云フ個人ナ主觀的ナコトニ依
ツテコトハ決マラナイ、ソレガ具
體的ニドウ云フ效果ヲ齎スカト云
フコトニ依ツテコソ決マルノデ
アル

〔發言スル者多シ〕

○**逋澤委員長** 細迫サンニ一寸注
意致シマス、モウ少シ大聲ニ言ハ
ナケレバ速記ガ取レナイト言ツテ
居リマスガ……
○**逋澤委員長** 靜カニ願ヒマス
○**細迫委員** モウ五分バカリデ止
メル積リデアリマス、今日ハ何ヨ
リ彼ヨリ民主的ナ體制ヲ一日モ早
ク確立スルト云フコトガ一番ノ大
切ナコトデアアルノデアリマス、此
ノ根本ハ言ハズト知レタヤウニ、
人權ノ基本的ナ尊重デアル、基本
的ナ人權ヲ尊重スルト云フコトデ
アリマシテ、労働權ノ擁護、労働
爭議權ノ擁護ト云フコトハ、是ハ
基本的ナ人權ト密接不離ナモノデ
アルノデアリマス、之ヲ尊重セズ
シテ何ノ民主主義體制ノ確立アリ
ヤト言ハザルヲ得ナイノデアリマ
ス、斯クノ如クニ労働者ノ労働争
議權ト云フモノヲ否認シ、或ハ制

限シヨウトスルガ如キコトハ、之
ヲ若シ我ガ議會ガ通過セシメルト
シマシタナラバ、是ハ世界ニ向ツ
テ我ガ議會ガ民主制度ナルモノハ
如何ナルモノデアルカ、民主主義
ト云フモノノ精神ガ何處ニアルカ
ト云フコトヲ知ラナイモノダト云
フコトヲ告白スルニ過ギナイモノ
デアルト思フノデアリマス、此ノ
意味ニ於キマシテ、私ハ我ガ衆議
院ノ權威ノ爲ニ此ノ原案ハ否決シ
去ルベキモノデアルト確信スル次
第デアリマス(拍手)

〔賛成者起立〕

○**逋澤委員長** 討論ハ是ニテ終局
致シマシタ、是ヨリ採決ヲ致スノ
デアリマスガ、ソチラノ方ニ記者
諸君ガ席ニ居ラレルヤウデアリマ
スカラ、委員外ノ方ノ退席ヲ……
御願ヒ致シマス
○**松岡(駒)委員** 委員長
○**逋澤委員長** アナタノ御話ガア
リマスガ、是ハ大臣ノ場合モアリ
マスカラ、一寸後ニ廻シテ戴キタ
イ、只今ハ討論ニ入ツテ居リマス
カラ、アトニシテ下サイ、ソレデ
ハ原案ニ賛成ノ諸君ノ御起立ヲ御
願ヒ致シマス
〔賛成者起立〕
○**逋澤委員長** 起立多數、仍テ本
案ハ原案ノ通りニ確定致シマシタ
(拍手)
次ニ江崎君ヨリ提出致サレマシ
タ自由、進歩兩黨ノ附帶決議案ニ
付テ採決致シマス、此ノ附帶決議
案ニ賛成ノ諸君ハ起立ヲ御願ヒ致

シマス
○**逋澤委員長** 起立多數、仍テ本
案附帶條項ハ決定致シマシタ
此ノ際政府ヨリ發言ノ通告ガア
リマス、之ヲ許シマス——河合厚
生大臣
○**河合國務大臣** 國民全般ノ公益
擁護ト日本再建ニ資スルコトヲ主
タル目的ト致シテ居リマス本労働
關係調整法案ガ、本委員會ニ於テ
多數ヲ以テ決議セラレタコトヲ厚
ク感謝スル次第デアリマス、尙ホ
附帶事項ニ付キマシテハ、本法ガ
二院通過ノ曉ハ政府ニ於テ誠意ヲ
以テ之ヲ實行スルコトヲ茲ニ言明
スル次第デアリマス(拍手)
○**逋澤委員長** 此ノ際委員諸君ニ
一寸御諮リ致シマス、只今松岡君
カラ討論中ノ質疑ニ對シテ一身上
ノ辯明ヲシタイト云フ御話ガアリ
マス、併シ委員長ハ前例ノナイコ
トデアリマスカラ許セナイト思フ
ノデアリマスガ、併シ特ニサウ云
フヤウナ申出ガアリマシタノデ、
如何致シマセウカ
〔許ス必要ナシ〕「許スベキ
ダ」其ノ他發言多シ
〔松岡委員「私ノハ江崎君ノ
發言中間違ツタ發言ガアツタ
カラ、ソレヲ訂正シタイト思
フノデアリマス」ト呼ブ〕
○**逋澤委員長** ソレデハ一寸委員
長ノ皆サンニ對スル御挨拶ヲ申上
ゲマス、本案ハ非常ニ重大ナ法案

デアリマシテ、院ノ内外ニ大キナ
關心ヲ拂ハレテ居リマシタ問題デ
アリマス、隨ヒマシテ委員諸君ハ
各黨各派ニ互リマシテ、連日ニ互
リマシテ、最モ御熱心ニ本案ニ對
スル御審議ヲナスツテ下サツタコ
トハ、委員長ト致シマシテ、洵ニ
感謝ニ堪ヘナイ所デアリマス、又
政府ノ各位モ本案ノ重大性ヲ確認
セラレマシテ、親切丁寧ニ事ニ處
シテ戴キマシタコトニ對シマシテ
厚ク御禮ヲ申上ゲマス、之ヲ以テ
本日ハ散會致シマス
午後零時三十分散會

第六期第十一號 労働關係調整法案委員會議錄 第十一回 昭和二十一年八月十六日

一九九

昭和三十一年九月十二日印刷

昭和三十一年九月十三日發行

衆議院事務局

印刷者 印刷局